

徳大病院

胃がんロボ手術
中四国最多100例

徳島大学病院で内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使った胃がんの手術数が100例を超え、中四国の病院で最多となった。早くから保険適用に向けて取り組み、内視鏡外科技術認定医が実績を積み上げた。病院は「徳島でも質の高い医療を提供していきたい」としている。

手術は腹部の数カ所に小さな穴を開け、4本のロボットアームを差し込んでがん部位を切除する。執刀医は手術台から数センチ離れた場所で3Dモニターを使って患部を確認しながら、手元の動きがそのままアームに伝わるコントローラーを遠隔操作する。

手術は腹部の数カ所に小さな穴を開け、4本のロボットアームを差し込んでがん部位を切除する。執刀医は手術台から数センチ離れた場所で3Dモニターを使って患部を確認しながら、手元の動きがそのままアームに伝わるコントローラーを遠隔操作する。

開腹手術と比べて傷口が小さく、腹腔鏡手術より器具の可動域が広く精密な動きが可能で、手術時間が短いという利点もある。

現在、県内で胃がんのロボット手術が保険適用されるのは徳大病院のみ。中四国の他県にはロボット手術

11年開始「質高い医療提供」

今年に入ってからのは2台目のロボットを導入した。訓練を受けた消化器・移植外科の技術認定医4人で胃

がんは大腸がんの手術を行っている。同科の島田光生教授(60)は「より完成度の高い医療を提供できる。術後のフォローも行い、徳島の安心安全に貢献したい」と話している。

(中野愛子)



ロボットを操作し手術する執刀医ら—徳島大学病院(病院提供)